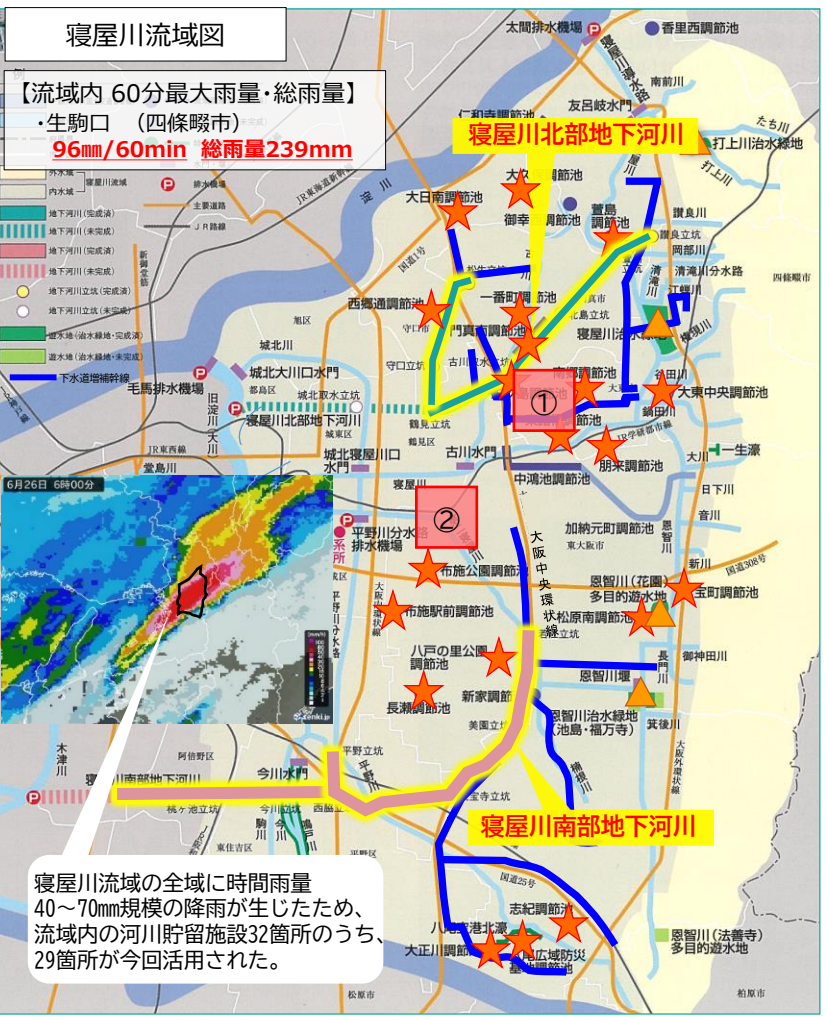


令和8年6月25~27日 豪雨に対する治水施設の効果（寝屋川流域）令和8年度 第一弾！

河川室、寝屋川水系改修工箇所、八尾土木事務所、枚方土木事務所、下水道室、東部流域下水道事務所

- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の治水施設の整備を推進中。
- これまでの施設整備により、今回の豪雨においても施設が無い場合に想定される**約675haの内水浸水被害を軽減し、これまでで最も高い効果を発揮！（浸水被害軽減効果額は約705億円※）**
- しかしながら、**降雨開始後1時間半程度で、貯留管運用している寝屋川北部地下河川、寝屋川南部地下河川を含む8つの河川貯留施設および15箇所の下水道増補幹線が満水**となっており、**流域内の更なる治水機能向上のためには、施設整備の進捗が必要であることを実感！！**

< 治水施設が効果を発揮し、浸水被害を軽減！！ >



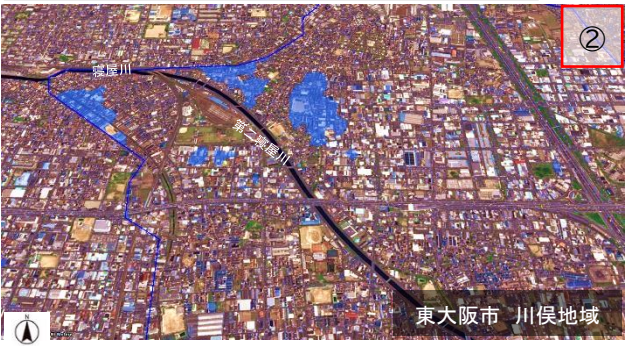
※ 簡易シミュレーションでの試算による。ただし、流域対応施設、外水施設の浸水被害軽減効果は対象外。

【寝屋川北部地下河川集水エリアでの被害想定】



- 軽減想定エリア 1,900,720㎡
 - 施設貯留量 447,064㎡以上※
 - 想定被害軽減額 約203.4億円
- ※地下河川・増補幹線の管渠に加え、立坑部分にも貯留

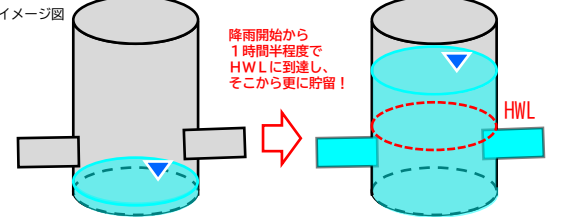
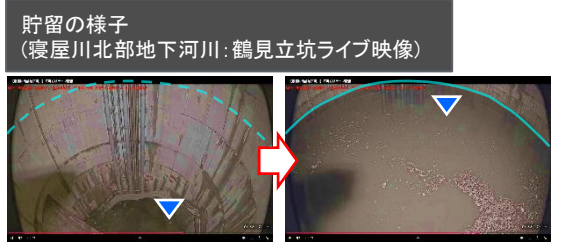
【寝屋川南部地下河川集水エリアでの被害想定】



- 軽減想定エリア 2,560,067㎡
 - 施設貯留量 949,187㎡以上※
 - 想定被害軽減額 約278.3億円
- ※地下河川・増補幹線の管渠に加え、立坑部分にも貯留

【令和8年6月25~27日の施設貯留量 約262万㎡（供用済全貯留量 541.7万㎡）】

- 【外水対策:87.3万m3】
- ▲：寝屋川治水緑地 (40.2万㎡)
 - 花園多目的遊水地 (8.1万㎡)
 - 打上川治水緑地 (3.9万㎡)
 - 恩智川治水緑地 (35.1万㎡)
- 【内水対策:175.3万m3】
- ：地下河川 89.0万㎡ **！歴代最大貯留量！**
(北部:26.0万m3、南部:63.0万m3)
 - 下水道増補幹線 50.6万㎡
(北部:18.7万㎡、南部:31.9万㎡)
 - ★：調節池 35.7万m3



H16年以降の総浸水被害軽減効果額は☆2兆円を突破しました！☆